

つながる命



10月2日 都立狭山公園 風の広場

チョウの仲間には成虫で冬を越す種類のほか、卵や蛹で冬を越す種類がいます。写真のツマグロヒョウモンは卵や幼虫で冬を越す蝶で、親は冬を前に次世代に命を繋ぎ、その役目を終えます。狭山公園では夏から秋にかけて、クリやオカトラノオ、ノハラアザミなど季節によってさまざまな花の蜜を吸う姿が見られます。

秋も終盤になると、だんだんと翅が痛み、満身創痍になってきます。今の時期、狭山公園ではススキ原っぱの近くにあるコセンダングサなどの花にとまり、懸命に蜜を吸う姿が見られます。雑草の生える原っぱも、彼らの命をつなぐ大切な場になっていることに気づかされます。彼らが居なくなる冬には一度草刈りが行われますが、その結果、春にはスミレ類などの野草が見られるようになります。ツマグロヒョウモンの幼虫はスミレ類を食べて育ちます。また来年、空を舞う彼らの子孫に出会えるのを楽しみにしたいと思います。